

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 金 1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営 (経済学入門) Economics and Business (Introduction of Economics)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 是枝正啓 / Eメールアドレス: koreeda@net.nagasaki-ac.jp / 研究室: 経済学部本管 612 号 /オフィスアワー: 授業終了後 30 分			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 経済理論(マクロ理論、ミクロ理論)の基本的知識および基礎理論を学ぶとともに、金融政策、財政政策の基礎を学ぶ。</p> <p>授業方法: 原則としてノート講義とする。</p> <p>授業到達目標: 経済学の基礎的知識および理論を習得する。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>まず、経済学はどのような学問か、経済学を学ぶためのポイントとしてどのようなものがあるか等を説明する。次に、マクロ理論の基礎である国内所得の発生とそのとらえ方について解説する。また、市場の役割と機能の理解のうえにミクロ理論の基礎である消費者の行動、生産者の行動の基礎を解説する。さらに金融政策、財政政策の基礎を説明する。</p> <p>第1回 経済学とはどのような学問で、どのようなことを対象にするか。 第2回 経済学を学ぶための基礎的概念、知識を解説する。 第3回 市場の役割と機能。 第4回 経済循環と国内所得。 第5回 国民所得の測定基準。 第6回 有効需要とその波及。 第7回 完全競争と家計の行動(1)(予算線、効用、効用関数等)。 第8回 完全競争と家計の行動(2)(効用最大化と最適消費量)。 第9回 完全競争と企業の行動。 第10回 不完全競争と企業の行動。 第11回 金融と金融政策。 第12回 金融政策の手段と方法。 第13回 財政と財政政策。 第14回 財政政策の手段と方法。 第15回 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	ノート講義とする。		
成績評価の方法・基準等	定期試験を 50 点とし、学習の態度、意欲、修得度の総合点を 50 点とする。合計が 60%以上を合格のための必要条件とし、合計の点数をそのまま成績の評価とする。学習の態度、意欲、修得度をみるために、原則として毎回ノートの提出を求める。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	教育目標: 経済学の基礎的知識および理論の習得。		
備考(準備学習等)	経済学に関する本を、やさしい入門書でもいいから、なにか1冊読んでおくのが望ましい。		